

Queensland Academy for Health Sciences 訪問

大成高等学校 教頭 加藤 信也

1 はじめに

2019年9月6日、私立学校教員海外研修団は、クイーンズランド州の南東部であるゴールドコーストのサウスポートにある Queensland Academy for Health Sciences を訪問した。当校は、州政府の selective school(選択的入学高校)の1つである。オーストラリアにおいて州立の高校で選抜を行うことはめずらしいが、この学校のミッションは最も優秀な生徒を集め将来のリーダーを育成することにある。そのため、教師も選抜している。



学校の入口

当校はグリフィス大学に隣接している場所にあり、内容によってはグリフィス大学と連携して教育にあたっている。また、学校名にあるように医学、歯学、薬学、理学へ興味を持っている生徒が多いのも特徴の一つである。この特徴を更に推進できるように周囲に理科学研究所や製薬会社が建設され、当校が建つエリアは一大研究都市になる予定である。

当校では、試験期間中ということで、残念ながら生徒が授業を受ける様子は見学できなかったが、州立高校でありながら他とは区別された教育を行うとはどのようなものなのかを中心に視察した。

2 学校概要

Queensland Academy for Health Sciences (以下、「QAHS」という。)は、Year10 から Year12 の生徒が学んでいる。生徒数は約 300 人。しかし、Year6 の学年から応募を受付けている。それは、保護者や生徒たちに学校の取り組みを理解してもらったうえで入学して欲しいからである。そのため、さまざまな行事を行い Year7 から Year9 の生徒に当校へ来てもらい、学校生活を紹介している。

当校は 2008 年に開校し、歴史的には浅い学校である



IB 教育について説明する校長

が、IB を中心とした先進的な取り組みを行っている。12 年間という短い間ではあるが、多くの教育的成果を上げている。開校以来変わらず、優秀な生徒を集め、その生徒を専門的な力のある教員が指導し、結果を出すことが大切であると考えているからである。

学校は 8 時 30 分から 14 時までである。その後、CAS(Creativity, Activity, Service) activities や tutorials が 16 時まで行われる。校内では、house 制 (AQUA, IGNIS, TERRA, VENTUS) を採用しており、生徒は勉強だけでなく、スポーツ、芸術分野などにおいてライバル関係にある。放課後の時間にトレーニングジムも開設されていて、勉強だけではなく精神力を養うプログラムも用意されている。

学校の特徴の 1 つでもある医歯薬系への希望者が多いこともあり、理科教育を推進するために充実した環境を備えており、Science Research Centre だけで 1 つの建物になっている。約 4,500 万オーストラリアドルを費やした施設には、実験教室・講義教室・実験準備室等も完備している。ICT 環境は当然充実していたが、理科教育には実物に触れるほか、実験を行うことも重要であると感じる施設だった。

3 QAHS が目指している教育

現在の校長 Mrs Vanessa Rebgetz 先生は、2011 年に副校長として着任し、2019 年から校長となり学校の運営にあたっている。来年から定員を 450 人に増やす予定である。Rebgetz 校長曰く、この学校は今後、地域の中核になると考えている。理由は、他の学校はライバルと考えていないところにある。優秀な生徒はより良い環境を求めて QAHS に入学すべきである。Year6 の生徒が在籍している小学校からも、生徒を QAHS に送りたいという声を聞いている。

また、世界レベルの授業を公立高校で行うということ、他と違ってスポーツ・遠足・パーティー等がなく勉強漬けの学校生活と思われがちであるが、その様なことはない。当校の生徒は、全員やる気があり、頑張ることのできる集団である。そのため、入学



体育館内にあるジム



実験用の薬品棚



教室の窓も教えるための場所

の願書の通知表には評価 A だけでなく B の生徒もいる。つまり、成績だけでなく Year9 のコメント、例えば、学習状況、出欠状況、行動規範なども重要視し、入学を見極めている。

4 結果を出すための組織体制

また、Rebgetz 校長からは、なぜ、ここまでの結果を出すことに成功しているかの説明があった。最大の理由はデータ収集と分析である。データ収集には IB からの採点結果やワークシートを活用し、細かいところまで分析を行う。それにより、生徒はどこでつまづいているか、教員はどのような指導が結果をもたらしたのかを考える。そのとき、同じ教科の教員と情報交換を行う。どのような指導が、どのような結果に結びついたかを共有することで、生徒・教員の双方で飛躍の可能性が高まるからだ。データの分析に関しても、経験の浅い教員には経験のある教員から分析の方法の指導がある。

教員は、その分析結果を必ず管理職に報告する義務がある。管理職側も分析結果を議論し検討する。そして、現場にフィードバックしてマネジメントチームで協力できることがあるか尋ねることを大切にしている。

5 おわりに

今回の訪問で、ICT 教育、アクティブラーニングについて見学することができなかったのは残念であったが、それ以上に、教員が生徒の力を伸ばすための努力していることを改めて実感することができた。

QAHS では『Bright Minds Brilliant Futures』というスローガンを掲げていた。たまたまではあるが自分が勤務する学校では『Opening minds, opening futures!』という学校目標のもと教育を展開している。また、自校の身なり指導と同様、当校が制服の指導に関して力を入れていたことに驚きを感じた。

つまり、国が違っても教育という子供を成長させるプロセスは共通点が多いと感じる海外研修であった。人間が将来にわたり携わると思われる「教育」という分野は、世界で共通の課題があり、それに対してどのようにアプローチするか模索している教員が全世界にいることを理解した。そのことにより、日々の授業に邁進していくエネルギーをもらえた気がする。

最後に、このような機会を与えて頂いた東京都私学財団、学校関係の皆様はこの場を借りてお礼を述べたい。また、渡豪前の豪州教育に長年携わっている方からのレクチャーが参考になった。併せてお礼を申し上げる。



QAHS 関係者との訪問記念

参考： Queensland Academy for Health Sciences Campus
<https://qaahs.eq.edu.au/>